

# 子夜呉歌

李白

白

長安一片の月

万戸衣を擣つ声

秋風吹いて尽きず

総て是れ玉関の情

何れの日か胡虜を平げて

良人遠征を罷めん

## 【作者】

李白（七〇一〜七六二年）・盛唐の詩人。杜甫（とほ）と並び称される。蜀（しよく）の錦州彰明県（きんしゅうしょうめいけん）青蓮郷（せいれんきょう）の人で青蓮居士（せいれんこじ）と号した。幼にして俊才、剣術を習い任侠の徒と交わる。長じて中国各地を遍歴し、四十二歳より四十四歳まで玄宗（げんそう）皇帝の側近にあり、のち再び各地を転々とし多くの詩をのこす。安禄山（あんろくざん）の乱に遭遇して、罪を得たがのち赦される。安徽省馬鞍山の地で没す。年六十二歳。

## 【語釈】

\*片月：ぼつんとある月。 \*擣衣聲：砧（きぬた）を打つ音 秋になると冬の用意のために布をたたいてつや出しをする時の音。  
\*玉関情：玉門関に遠征している夫を思う妻の情 玉門関は長安の北西3600里（約2000キロメートル）の所にあつて今の甘肅省敦煌の北西に位置する 当時異民族を討伐するために男たちは遠征していた。

\*胡 虜：北方の異民族。 \*良 人：夫。

\*罷遠征：遠征をやめて帰ってくるのであるうか

## 【通釈】

長安の夜空にはぼつんと一つの月がかかつており、あちこちの家々から砧を打つ音が聞こえてくる。

また秋風は絶えまなく吹き続け、さらにこれらは（月光・砧の音・秋の風）すべて玉門関に遠征している夫を思い慕う情をかきたてる。

いったい、いつになったら夫は異民族を平定して、遠い戦地から帰ってくるのであるうか。

## 【備考】

「子夜呉歌」は楽府題で、東晋のころ子夜という女性が歌い始めた民謡といわれる。東晋の都は呉にあつたのでこの地方の歌を呉歌という。李白の「子夜呉歌」詩は春夏秋冬の四首連作で、この詩はその第三首目秋の歌であり「唐詩三百首」に所収されている。